

## 2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[神戸大学附属中等教育学校] 担当教諭名[山本 尚子・岩見 理華・森田 育志・佐伯 源太郎・小嵯 麻由] (3年1組40名)  
 交流相手国[ タンザニア ]  
 海外学校名[ Kilakala Secondary School ] 担当教諭名[ Christopher Milimo / 稲村 友紀(JICA) ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	学級活動	自己紹介ビデオ制作、アートマイル講演会、テレビ会議	8
	総合的な学習の時間	テーマの細分化、壁画下絵の検討	4
	ESD	「アートマイル相手国を知ろう」、「テーマ学習」	8
	美術	構図の検討	3
	英語	テレビ会議	1

### ■作品について教えてください。

題 (テーマ)	エネルギー
絵に込めたメッセージ	肌の色の違う女の子を中央に描き、それぞれの国の特徴的なもの(桜の花:日本側、動物:タンザニア側)を壁画全体にあしらいました。テーマのエネルギーについて、日本はモダンな建物とともに火力発電、風力発電、太陽エネルギー、原発など多様性を表現し、タンザニアは対照的に伝統的な村の様子と天然資源などを描いてくれました。中央の光の輝きは、これからのエネルギーの未来を担うであろう互いの国の生徒たちの「若者の活力」を象徴しています。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことだけではなく、実際に交流することで相手の国を身近に感じることができた。</li> <li>Skype を使ったテレビ会議ははじめての経験だったので直接交流の楽しさが味わえた。</li> <li>テレビ会議では、相手に伝えるために英語の話し方や写真など実物の見せ方を工夫することができた。</li> <li>2回目のテレビ会議ではかなり絵に描かれたものの説明を受けるにあたって、かなり深い内容の話し合いができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等でアートマイルの活動を十分に組み込むことができなかつたので、「もっとやりたい」という生徒の欲求に応えることができなかった。</li> <li>壁画の制作(構図決めや何を描くかということ)については話し合いができなかった。</li> <li>絵の制作にはお互い時間がかかってしまった。計画の時点でもっと教員同士で話し合い、調整が必要であると感じた。</li> </ul>

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流体験の大切さを知ることができた。</li> <li>相手国について今まで知らなかったことを知ることができ、もっと知りたいと思うようになり、他の活動にも積極的に取り組む姿勢が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙やテレビ会議での交流を通して、海外の生徒たちと直接交流する体験をさせることの意義を感じることができた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	7月～9月	英語で自己紹介の手紙を書く。グループで英語の自己紹介のビデオをiPadで撮影し、編集したDVDを相手校に手紙とともに送る。	自己紹介のビデオ制作ではiPadを使ってビデオを撮影したのでその都度自分のパフォーマンスをチェックし納得いくまで練習して撮影していた。	学級活動 総合
テーマ学習	7月～11月	相手国について調べたレポートを作成し、文化祭でも展示。アートマイル代表の塩飽隆子氏を講師にお招きし、講演会を実施。	パソコンを用いてレポート作成を行う中で興味や関心が高まったようだ。講演会で実際の作品を見せていただいたことで活動への意欲が高まった。	学級活動 ESD
構図決定	11月	クラスで構図のコンテストを行い、壁画の中にな何を配置するか考える。教員同士の打ち合わせとテレビ会議のテストを実施したのち、第1回目のテレビ会議を実施。	第1回目のテレビ会議は画像が荒く、見せていただいた写真がよくわからなかったが、相手と直接つながることができ大変うれしそうだった。うまく伝えられなかった場面もあり、「次はもっとがんばりたい」という意欲が感じられた。	ESD 美術 英語
壁画制作	12月1月	プロジェクターを使って下絵を描き、分担して冬休みを中心に色付け作業を行う。	下絵ができてからは色付け作業にも力が入り、完成へ向けて意欲的に取り組めるようになった。	放課後 冬季休業中
鑑賞・振り返り	2月3月	テレビ会議で相手校から完成作品について説明を受ける。保護者会と全校集会でアートマイルの取組について説明し、完成作品を披露し、その様子が地元新聞に掲載される。	第1回目のテレビ会議の反省を生かし、よりよく伝えられるように声の大きさやスピードに注意して発表していた。また、相手の言うことが理解できなければ聞き返したり、ゆっくり話してもらったりするなど積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢がみられた。	放課後 全校集会

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	3	テレビ会議では教育制度についてなど、相手の質問のレベルが高く、十分に日本について説明することができなかった。
異文化の理解	A	4	相手国について積極的に調べた結果、多くのすばらしいレポートができ、文化祭で保護者や地域の方に紹介することができた。
コミュニケーション力(説明・共感・英語)	B	3	お互い母語ではない英語を使用しての交流だったが、よりよく伝えられるように工夫し、努力していた。またテレビ会議の通信状況はあまりよくなかったが、相手の言うことに積極的に耳を傾けて理解しようとする姿勢が見られた。
情報活用能力(情報収集・発信)	B	4	レポートを作成する際、インターネット等から情報を収集する力が身に付いた。
人間関係をつくる(学級内・交流相手)	A	3	普段から班別学習や対話型の授業形態に慣れ親しんでおり、学級内の人間関係はできていたが、交流時間が少なかったため相手校とは十分な交流ができなかった。
協働する力(役割分担・協力)	B	3	アートマイル実行委員を中心に活動していたが、他の生徒にもうまく役割を与えることができなかった。
学習を追究する意欲	A	4	直接相手とつながることで、学習意欲が高まった。
表現力(伝えたいことを絵で表す)	B	4	日本のエネルギーについて、メッセージをうまく絵に表現することができ、相手校にもその内容を伝えることができた。
作品を鑑賞する力	C	4	第2回目のテレビ会議で、相手側から作品についてかなり多くの説明を聞くことができ、相手国について理解を深めることができた。日本側の絵について説明する機会もあり充実した鑑賞会ができた。完成作品も集会で披露でき、達成感が味わえた。